

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3回生 伊藤 有希

8月17日から27日までベトナムの研修に行きました。研修内容は学会の参加、チョーライ病院の研修、観光などです。特に学会や病院の研修は一般の旅行では行けないので、とても貴重な体験をすることができました。



チョーライ病院はホーチミン市にあるとても大きな病院です。ここで、4日間の研修をしました。

まず、驚いたのは患者さんの人数です。待合室や廊下にたくさんの患者さんが並んでいました。ベトナムは日本と違い1日にたくさんの患者を検査していることがわかりました。

他にもベトナムではCTとMRIの検査でフィルムを使っていました。日本とは違い患者数も多いので毎回フィルムを出して大変そうでした。また、CTとMRIの装置は実際に触らせてもらいました。CTでは患者さんのデータをパソコンに打ち込んで照射ボタンを押すこともしました。日本ではできないので、とても良い経験をしました。

ベトナムに行って一番印象に残ったのはバイクの量がすごく多かったことです。ほとんどの人が車を使わないでバイクを使っていました。朝や夕方の道路の混み具合は日本では考えられないほどで、事故が起こらないか心配でした。道を渡るときもバイクは止まってくれないので、潔く勇敢に渡ることを覚えました。

また、ベトナムでは美味しいカフェの店が多いのも魅力的だと思いました。特にコーヒーと紅茶はとても美味しかったです。ベトナムの方がご飯の後、おすすめのカフェに連れていってくださったのでとても幸せでした。ベトナムのコーヒーと紅茶は日本より甘く飲みやすかったです。

ベトナムに実際に行ってみると、日本とは文化も言語も全然違いました。私は英語が苦手で仲良くなれるか不安だったけど、ベトナムの方から積極的に英語で話しかけてくれたり、おすすめを紹介してくれたりたくさんのおもてなしをしてもらいました。今回、研修に参加してベトナムの魅力に気づくことができ本当によかったです。また、機会があればいろんな国に行っている人とお会いしたいと思います。



海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3回生 金澤 穂乃花



〔学会参加〕

会場にはたくさんの先生方が集まっており、交流をされていました。発表は主に英語で行われ時折ベトナム語と日本語に翻訳されていました。初めて学会を見学しましたが、限られた時間の中で分かりやすく他言語を用いて説明するのはかなり難しいものだと感じました。建物の中では学会発表の他にも多数の企業によるポータル紹介も行われていました。ここで私たちも現地の学生と交流することができ、ベトナムの医療制度や教育について

知ることが出来ました。

〔病院実習〕

チョーライ病院を訪れて最初に印象を受けたのは患者数の多さでした。また症状や状態の悪い方が多いような印象も受けました。ベトナムでは待合室がなく廊下で待機してから操作室に入室し検査を受けていました。MRI や CT の撮影法、画像の編集法は同じでしたが、電子カルテがないためフィルムもしくは CD-ROM で作成していました。病院の中はチョーライ病院唯一の女性技師の方が案内してくださり、MRI や CT 室では先生方が英語で病院のことや画像について説明してくださったため理解を深めることが出来ました。





[現地学生との交流]

学会に参加した際に知り合った現地の学生と観光ツアーに参加したり、学生だけで食事に行くこともありました。お互いに母国語ではない言語を使ってコミュニケーションをとるので意思の疎通が難しかったです。一緒に活動することはとても楽しかったです。ただもう少し英語が話せたらもっと楽しめたんじゃないかなと思いました。しかし積極的に話しかけてくれたり、おすすめのお店や場所を教えてくださいと、皆さん優しい方ばかりでした。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3回生 児島 真由



私は今回のベトナム研修で初めて海外へ行きました。そのため、出発するまでは不安がありましたが、大変充実した10日間を過ごすことができました。

今回の研修での私達の目的は主に学会の参加、病院研修、そして観光です。学会ではベトナムだけでなく、中国、日本、オーストラリアなどの国の方が発表されていました。病院研修では日本とは違うところがたくさんあって衝撃を受けました。人の多さや設備のこと、他にもここに書くときりがないためぜひ実際に行って体験してください。観光は自由行動の時間もたくさんありましたがツアーにも参加しました。ツアーに参加するときは動きやすいズボンをおすすめします。私はそれでスカートを汚しました。

持って行ってよかったと感じたものは水に流せるポケットティッシュです。ベトナムのトイレトーパーは水に流せないものが多く、また、まれに紙を置いていないトイレもあるためリュックに少し多めに入れるようにしていました。ウェットティッシュも一緒に持つと便利です。

最後に、今回の研修旅行に参加して様々なことを体験することができました。個人で行く旅行では体験できないようなこともたくさんあったので、本当に参加してよかったと思いました。



海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3回生 小谷 静也

今回のベトナム海外研修の目的は、ダラットで行われる学会参加とチョーライ病院での実習である。



[学会参加]

2日目、ダラットで学会に参加した。3回生の僕にとっては初めての学会出席である。放射線という学問を学び突き詰める人しかいないこの会場の雰囲気、とてもすごみのあるものだった。また、最新の医療機器も展示されていた。そして、日本から来られている技師さんの発表もたくさんあった。スライドの構成や英語で堂々と発表される姿を見て、カッコいいと思ったし、僕も将来こうなりたいと目標を作ることもできた。

この日の夜にはガラディナー、3日目のダラット市内観光の際には、日本から来られて技師の方々から、就職・仕事の話、学校・勉強の話、学会での発表についてなど様々な話を伺うことができた。さまざまな考え方に触れることができたとても貴重な経験でした。

[チョーライ病院実習]

チョーライ病院での実習。まず、驚いたのが患者さんの多さ。廊下には、何台もベッドが並び、床に座っている人など日本では考えられないほどの人数がいた。そのなかには、とても痩せている人、青タンができ患部が腫れ上がっている人もいた。検査数も日本の倍以上あり、これだけの人数を捌くために日本とは異なる手順方法で撮影、撮像していた。また、日本とベトナムでは診療



放射線技師の業務内容も異なり、放射線技師が注射や検査内容の変更をすることができる。木曜日には、International Becamex Hospital という国際病院を見学した。とても新しい病院で安全管理のレベルが高かった。また、最終日には、滋賀医科大学附属病院の技師さんによる講義を受けた。私たちもここでプレゼンテーションの発表をさせてもらった。写真はこの日にいただいた修了証の受け取り場面である。

ダラットで行われる学会参加とチョーライ病院での実習以外にも、ベトナムの学生との交流やベトナムの文化に触れることができた。

ベトナムの学生とは、2日目の学会ではじめて顔を合わせた。初めは、お互い距離感がつかめなかったが、すぐに仲良くなった。夜には、ガラディナーで一緒にご飯を食べた。そのあとには、ダラットの夜市を案内してくれた。



3日目のダラット市内観光では、たくさん話をして、たくさん写真を撮った。お互い英語で会話をした。初めは英語で話すことに慣れなくて、自分から積極的に話に行くことができなかったが、このころには、英語で話すことに違和感はなかった。お互い英語は、第二外国語なので完璧な英語を話す必要はなく、とても楽しい時間を過ごせた。

ホーチミンに戻った4日目以降も、ダラットで知り合った学生が市内を案内してくれたし、ホーチミンにいない学生からはSNSを通じてメッセージが届いた。また、日本語を勉強している学生とも出会った。みんな、空いてるときはある？、疲れてないか？、実習がんばれと僕たちにとっても親切にしてくれた。

ベトナムにきて7日目くらいになるとバイクの量やクラクションの音などベトナムの生活に慣れ、タクシーに乗り、買い物に行ったり、ご飯を食べに行ったりできた。



そして、最終日。日中、メコン川ツアーに行き、夜にはベトナムでできた友達とご飯に行った。最後空港には、お見送りに来てくれて、お別れをした。友達との別れ、ベトナムから日本に帰ると考えると涙がでそうなくらい寂しい気持ちになった。こんな気持ちになるなんて、本当にベトナムで過ごした10日間で充実したいい時間を過ごせたのだなと改めて思った。このような素晴らしい経験ができてとても良かった。



[病院実習]

とにかく患者さんの人数が多く、その人数を捌くために日本と異なる手順方法で仕事をされていた。

MRでは、機会による磁気チェックはしない。診察や口頭確認をしているそう。また、内開きのドアしかないMRの部屋があったりした。3T、1.5Tの装置どちらもあった。3年の僕にとっては、2年のときの実習ではあまりわからなかったMR、3年前期で勉強したことにより、もう一度実習できるというのはとてもいい機会だった。

CTでは日本と同じように単純や造影検査が行われていた。検査数は午前で42くらいだけど頭部のCTAが多いような気がした。ベトナムで多い疾患や死因を調べておけばよかったなと思った。馬蹄腎を実際に見ることができた。CTもMRIでも注射は技師が行う。また、検査中にガンが見つければ、その場でオーダーを追加し検査していた。この2点は日本とベトナムの放射線技師について異なるところだった。

一般撮影は特に患者さんが多かった。そのため、手順が日本と異なっている部分が多かった。胸部や頭部の撮影では照射野全開で患者によって照射野を変えるということはしていなかった。また、検査室に患者さんが2人いるという状況が一般撮影、CTやMRで必ず起こる。日本では、患者を完全に退出させてから次の患者を呼ぶがベトナムでは、次の患者を検査室に入れてから、前の患者が退出する。一般撮影では、検査中の患者以外の方が検査室にいるときに曝射しているという状況を何度か見た。患者の動きは日本とは完全に異なっていた。まず、一定数の患者は名前を呼ばれ、待合室から検査室に入る。そこで、名前の確認。次に操作室に移動する。操作室には患者が座る椅子が用意されている。検査が始まり、名前を呼ばれた人は操作室から検査室へ。検査が終わると検査室から待合室へ。これが繰り返される。CTやMRでも患者は操作室から検査室に入っていた。また、患者の家族がベッドからベッドへの移動を手伝ったりする場面多く見られた。

画像の保存はDVDで行っていた。PACSもあるが容量が小さく保存や部門間での共有を行うことはしていなかった。部門間はフィルムを患者が持ち運ぶという形になっていた。CTやMRの画像をフィルムでみるという貴重な体験ができた。

DSAでは、動脈瘤のコイリングを見ることができた。日本より照射野が大きいような感じがした。透視している時間も長いような感じがした。技師や医者、看護師などのスタッフも少ないような感じがした。

International Becamex Hospitalでは日本で見たことない安全管理を見ることができた。検査室の扉はスイッチで制御され、すべてが閉まってないと照射できない。検査室も広くとてもきれいな病院だった。

[感想]

ベトナムでのすべての経験が自分の考え方を変えたし、これから勉強していく糧になった。

学会に参加できて、僕も将来こうなりたいと目標を作ることもできたし、勉強するモチベーションにつながると思う。

日本から来られている技師さんからは就職・仕事の話、学校・勉強の話、学会での発表についてなど様々な話を伺うことができた。人それぞれ、異なる意見、考え方があり、学生のうちにいろいろな視点の考え方を知ることができて良かった。また、目上の人への言葉遣いやメールの仕方など社会人としてのマナー、実際にこういう場面になると、とても難しく身に付けるべきだと思った。

また、ベトナムの技師さん、学生はとても勉強熱心で日本で勉強したいと言う人が多かった。自分は日本にいい環境の中に身を置いているのに、、、もっと頑張らないといけないと思った。そして、学生と仲良くなれたことは次もう一度ベトナムに行きたいと思う理由の一つである。

ベトナムで10日間生活することで、毎日が初めての連続で今思えばそれを毎日乗り越えてきたのだなと思う。このことは自分にとって、とても自信になったし少々のことではビビらないと思う。

最後に、今回のベトナム研修では、松尾先生、霜村先生に大変お世話になりました。先生方から学校ではしないようなお話を聞けたり、授業では習わないようなことを教えてもらえました。

この研修は自分にとってターニングポイントであると思う。あの時、ベトナムに行く決めて本当に良かった。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 4回生 荒見 有紀



私の今回のベトナム研修での目的は大きく分けて3つあります。それらに基づいて報告します。

一つ目は、言語が違う人とのコミュニケーションをとり、友達を作ることです。今回の研修で私は初めて海外へ行きました。当たり前ですが言語が違うので、コミュニケーションをとる事に大変苦労しました。ベトナム人とは英語でコミュニケーションをとりました。ベトナム人の第一言語はベトナム語です。そうとは思えないほど、ベトナムの学生の方々は英語が上手でした。英語が不得意な私のために、出来るだけ簡単な英語を選び、

ジェスチャーを加えながら会話をしました。たった10日間の研修ですが、友達と呼べる仲になるほどになりました。

二つ目は異文化にふれることです。食やバイクの多さや家の形態などの衣食住についての印象も残っていますが、それよりもベトナムの人の性格や考えのほうがより印象的でした。ベトナムの方はとても優しく、気さくな人が多いです。さらに、とても向上心があります。英語だけでなく、日本への関心もあり日本語についての質問を数多くされました。また、放射線や医療についての知識の向上への意欲もとてもありました。どの人も向上心にあふれていることが衝撃的でした。



3つ目は、ベトナムの医療を知る事です。ベトナムでは、チョーライ病院というところで実習をしました。チョーライ病院はホーチミン市という大都会にある病院で、患者で病院が溢れ返っていました。一般撮影やCT、MRIなどの検査数は日本よりも2倍以上多いのです。なので、放射線技師は撮影条件のパラメーターを変えることや放射線技師間の助け合いなどをして検査の効率を良くすることに努めていました。また、ベトナムにはPACSがなく、フィルム



を出していました。シャーカステンを使用して読影しているところを実際に見るのは初めてだったので、今の日本のシステムの良さを実感する良い機会になりました。



コミュニケーションをとる難しさや、ベトナム人の向上心の強さ、ベトナムの医療の現状など今回のベトナム研修を通して様々なことを学びました。ベトナムの方々に負けないくらいに向上心を持ち何事にも取り組みます。また、今回の研修で学んだことを今後の勉強や放射線技師として働くことに活かしてゆきたいと思います。



海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 4回生 小林 由佳

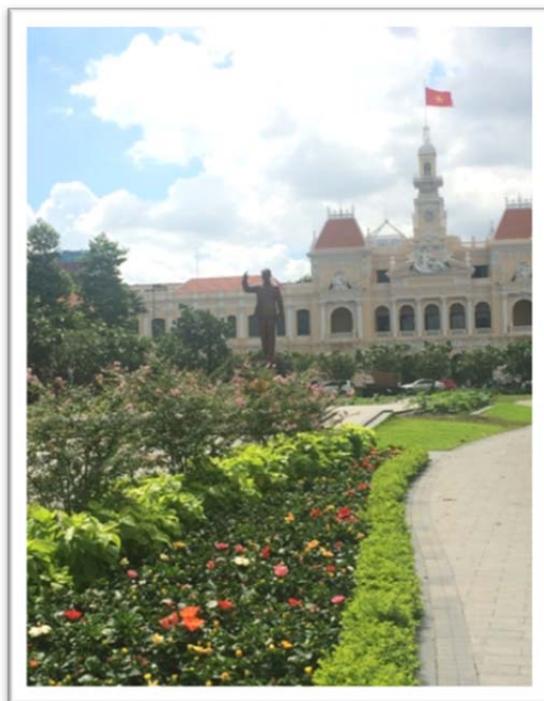
初めての海外だったので、色々と戸惑うことや新しい発見が数多くありました。私は英語が得意ではなく、正直こんな状態で海外に行っても大丈夫なのかという不安がありました。しかし先生や他の学生、ベトナムでお会いしたたくさんの方々に助けて頂き、色々な経験をすることができました。



病院実習はホーチミンのチョーライ病院でさせていただき、CT、MRI、IVR、読影室を見学しました。話には聞いていましたが病院内は人が多く、常に廊下の両側に人がいるので通路がかなり狭かったです。基本的に検査室には患者と診療放射線技師しかおらず、診療放射線技師の業務内容は日本と少々異なっていました。その中でも特に診療放射線技師が注射をしていたのは印象的でした。

またチョーライ病院ではIVRの件数が1日に約20件あるそうです。そのため1回の検査スピードがとても早く、検査はとてもスムーズに終わっていました。ただ日本とは違い、カテーテルは洗って同じものを3回ほど使うそうです。ベトナムは日本と保険制度が違うので、使い回さないと裕福な人しか高額なカテーテル治療を受けられません。少しでも多くの人を救いたいという気持ちは医療従事者には当然あると思います。その上で医療従事者として働いていく際には、その医療行為により発生するメリット、デメリットを把握し、何が患者にとって最適な医療なのかを考えていかなければならないと感じました。

このベトナムでの10日間はとても充実したものでした。海外と聞くとハードルが高い、危険とを感じるかもしれませんが。実際少し裏の路地に入ると危なそうな雰囲気のある場所もありました。しかし大学生のうちにさまざまな経験を積んでおくことは将来何かしらの役に立つと思います。病院実習も行いますが、観光もかなりできるので他の文化に触れるいい機会だと思います。



海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 4回生 杉江 恵太



8月17日

関西空港よりベトナムへ向けて、日本を出発しました。



8月17日～19日の間は、ダラットに滞在しました。

ダラットでは、戦争博物館やダンスバーへ行ったり、学会発表に参加しました。



また、バスツアーではダラット大教会や象の滝、竹林禅寺などを訪れました。



8月20日にホーチミンへ移動し、21日～25日までチョーライ病院で実習を行いました。また、24日はビカメックスへ病院見学にいきました。



8月26日には、メコン川ツアーに参加しました。そこで初めて蛇を首に巻きました。



8月27日、無事日本へ帰国することができました。ベトナムはとても楽しかったですが、やはり日本が一番落ち着くと実感しました。



感想

このベトナム研修で、僕は初めて海外へ行きました。そこでは、日本とは異なる文化に触れたり、英語で人々とコミュニケーションをとったり、日本に居るだけでは経験できないことを目で見て、耳で聞いて、肌で感じることができました。これを機にもっと色々な国を訪れてみたいと思うようになりました。

もし機会があるなら是非とも、もう一度ベトナムを訪れたいとおもいます。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 4回生 前田 華那



私が、今回の海外研修を通して、学んだことや刺激を受けたことを3つに分けて報告します。

1つ目は、英語力の必要性です。学会の発表だけでなく、ベトナムの学生との交流も何もかも英語でした。初めての経験で、苦劳しましたが、私たち日本人が英語に苦戦している一方で、ベトナムの方は皆、英語が堪能です。これまで、小学生から英語を学んできましたが、身につけていたのは読む力と書く力のみだったと痛感しました。

しかし、英語が上手に話せないからといって全くコミュニケーションがとれないわけではなく、知っている単語を使った簡単な文章で十分通じました。お互いに英語が母国語ではないため、単語や構文の正確さよりも、伝えたいという気持ちの方が大切だと思います。自分のつたない英語が外国の相手に通じたときは、とても嬉しかったです。

2つ目は、ベトナムの街並みや文化です。ベトナムの街並みは、一見すると高層ビルがあり都会的ですが、道端にはタバコやスナックを売っている親子や年配の女性が座り込んでいました。また、ベトナムにはフランス植民地時代の面影が残っており、アジアとヨーロッパが混ざったような独特の街並みが見られ素敵でした。他にも、野良の犬や猫がいたるところで見られたのが印象的です。どれも日本では決して見ることのできない光景で、刺激を受けました。

食事は、好みにもよると思いますが、私はすべてを美味しいと感じることはできませんでした。しかし、エビは本当に美味しくて、いくらでも食べられました。

3つ目は、ベトナムの病院です。今回私たちは、ホーチミン市にあるチョーライ病院で実習をさせていただきました。チョーライ病院は、病床数1700床、外来患者数年間100万人という、非常に大規模な病院です。朝早くから大勢の患者さんとその家族が病院内外で、自分の番を待っていました。



診療放射線技師の仕事ぶりを見ていると、日本との違いがいくつもありました。まず、撮影した写真はすべてフィルムに現像し、それを医者のもとに直接持って行っていました。次に、患者一人あたりにかける時間が短いです。患者数が非常に多いため、ゆっくりやっていると全員を診ることができません。また、私が実習させていただいたCT室には看護師は常駐していないようで、介助はすべて家族が行い、造影剤の注射は診療放射線技師が行っていました。



チョーライ病院では、一般撮影全体で1日に約1000人、MRは装置1台あたり1日に約40人、緊急CTは1日に約200人の撮影を行うと聞き、人数の多さに驚きました。緊急CTの件数の多さは、バイク事故が原因です。



私は就職活動のために5日間のみ参加でしたが、ベトナムの学生との交流や病院実習を通して大きな刺激を受け、とても貴重な経験をすることができました。

この経験をこれから様々な場面で活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

